

どうしても 勉強がしたくなる一冊

遙洋子著『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』 筑摩書房・他

読 んで勉強になる
 本は多いが、「読

むと勉強がしたくなる本」はあるか？遙洋子著「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」を薦めたい。これは、タレントである著者が東大大学院の上野ゼミで学んだ3年間を綴ったエッセイである。本書に

は「勉強とは教えを乞うことではなく、先人を批判すること」「学問は格闘技」「論文を野球観戦のように読む」など、なるほどと思うフレーズが多い。読めばきつと「勉強って、こうすればいいのかわか」と思うに違いない。そして読み進むと、上野ゼミで著者が何をつかんだのか、どう成長したのかが分かる仕掛けになっている。

著者が学んだ上野千鶴子とは、フェミニズムで最も有名な社会学者の一人で東大の教授である。そのカリキュラムは「必要な文献をシナリオどおりに配した膨大な読書量をこなすことで、その分野については短期間で国際水準の議論ができるようになる」という「欧



米型」であるという。それがどのようなものなのか、本書で追体験できるだろう。そして上野その人に興味があれば、上野の著書も読んでみよう。多くの著作があるが、最近でた「サヨナラ、学校化社会」がおもしろい。きつと「学校的」ではない勉強がしたくなるだろう。

■遙洋子「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」筑摩書房、二〇〇〇年、一四〇〇円、ISBN4-480-81815-4

■上野千鶴子「サヨナラ、学校化社会」太郎次郎社、二〇〇二年、一七五〇円、ISBN4-8118-0666-2



水口 剛 (みずぐち・たけし)

経済学部助教授。
 大学卒業後、商社に勤め、退職してから公認会計士試験を受験。一時期、会計士の仕事をした後、企業の環境問題を研究するNPO「バルディース研究会」の事務局を経て、本学教員となった。専門は環境会計と社会的責任投資。今の楽しみはもっばら子どもと遊ぶこと。